資 料 ２－２

平成26年12月定例会（付託）
総務委員会資料
（政策創造部）

新たな総合計画「長期ビジョン編」素案
（2050年頃の目指すべき将来像）

1　時代の潮流（世界～日本～徳島）

（１）世界の人口爆発と人口減少・超高齢社会の日本

（２）地球環境問題の深刻化と巨大自然災害

（３）科学技術が切り拓く人類の未来

（４）加速するグローバル化と課題解決先進国“日本”

（５）“新しい価値”を創造していく徳島

2　県民意識とニーズ

（１）徳島の将来像に対する主な意見

（２）若者の視点

①徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」における議論

②高校生・大学生アンケート調査結果

3　将来ビジョン（2050年頃の姿）

（１）世界へ発信「笑顔のＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」

（２）世界に誇る「強靭なＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」

（３）世界とつながる「創造のＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」

1　時代の潮流（世界～日本～徳島）

（１）世界の人口爆発と人口減少・超高齢社会の日本

世界人口は95億人を突破し、100億人を視野に

世界の人口は、アジア・アフリカを中心に爆発的に増加し、2015年の約73億人から、2025年に80億人を超え、2050年には約96億人に達すると予測されており、新興国の経済成長や異常気象ともあいまって、食料・水・エネルギー需要の高まりや地球環境への影響が懸念されています。

我が国人口は１億人を割り込み、高齢化率は約40%に

我が国は、世界に例を見ない速さで人口減少と高齢化が進み、2015年の約1億2千7百万人から、2025年に約1億2千百万人、2050年には約9千7百万人まで減少し、１億人を割り込むと予測されています。

年少人口（０～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）が減少の一途をたどる一方で、老年人口（65歳以上）は、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入った後の2042年に約3千9百万人でピークを迎え、その後は一貫して減少に転じ、2050年には約3千8百万人と、約４割（38.8%）が65歳以上となる見込みです。

政府は、我が国経済や財政、社会保障制度などへの深刻な影響が避けられないとの危機感から、「経済財政運営と改革の基本方針2014」（平成26年6月24日閣議決定）において、“50年後に１億人程度の人口を保持”を掲げ、2020年を目途に「人口急減・超高齢化」の流れを変えていくこととしています。

人口の地域的偏在が加速

国土交通省「国土のグランドデザイン2050　～対流促進型国土の形成～」（平成26年7月4日公表、以下「国土のグランドデザイン2050」という。）によると、急激な人口減少によって人口の地域的偏在が加速し、全国を１ｋｍ２のメッシュで見ると、現在の居住地域の63%の地点で人口が半分以下となり、うち19%の地点では、人が住まなくなると予測しています。

民間研究機関「日本創成会議・人口減少問題検討分科会」（以下「日本創成会議」という。）の推計（2014年５月）では、2040年には全国896市区町村（49.8%）が「消滅可能性都市（若年女性（20-39歳）の人口が５割以上減少）」に該当し、うち、523市区町村（29.1%）は人口が１万人未満となり、消滅の可能性が更に高いとしています。

全国を上回る速度で進む徳島の人口減少・高齢化

本県では、全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2015年の約76万人が、2025年に約69万人、2040年には約57万人まで減少すると予測されており、2050年には50万人を割り込むとの試算（49万3千人：「国土のグランドデザイン2050」）もあります。

老年人口（65歳以上）は、2015年に約24万人（31.3%）だったものが、2025年に約25万人（35.8%）、2040年には約23万人（40.2%）となる見込みです。

年少人口（０～14歳）は減少が続き、2015年の約９万人（11.6%）が、2025年には約７万人（10.1%）、2040年には約５万人（9.2%）にまで減少します。

生産年齢人口（15～64歳）も同様に減少を続け、2015年の約43万人（57.2%)が、2025年には約37万人（54.1%）、2040年には約29万人（50.5%）となる見込みです。

全県的に厳しさを増す過疎化の進行

「国土のグランドデザイン2050」によると、本県でも人口の地域的偏在が加速し、現在の居住地域の73%の地点で人口が半分以下となり、うち30%の地点では、人が住まなくなると予測しています。

また、「日本創成会議」の推計でも、2040年に約７割に当たる17市町村が「消滅可能性」があるとされるなど、現状のまま推移すれば、本県でも自治体や地域社会の消滅といった厳しい状況となることが懸念されます。

（２）地球環境問題の深刻化と巨大自然災害

地球環境問題の深刻化

人類に生活の利便性や豊かさをもたらした、世界規模での工業化の進展は、一方で、エネルギー消費の増大による地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少といった深刻な地球環境問題を引き起こしています。

とりわけ、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、豪雨や猛暑などの異常気象の頻発といった自然災害リスクの増大が懸念されるほか、水不足や農作物の収量減少、海面上昇による居住地域の減少や、熱中症や感染症の増加など、人間社会にまで幅広く影響を及ぼすとの予測もあり、温室効果ガスの削減は、人類共通の喫緊の課題となっています。

我が国でも確実に迫り来る巨大地震と高まる自然災害リスク

我が国においては、今後３０年以内に、首都直下地震（Ｍ７クラス）や南海トラフ巨大地震（Ｍ８～９クラス）が70%程度の確率で発生することが予想されています。

また、近年、我が国でも、異常気象や大きな自然災害が頻発していますが、今世紀末には、20世紀末頃と比べて夏の日平均気温が4.2℃上昇し、大雨の頻度が増加するといった予測もあり、今後、自然災害の危険性が更に高まることが危惧されます。

こうした確実に迫り来る巨大地震や、高まる自然災害リスクに備えるべく、我が国では、東日本大震災の教訓も踏まえ、国土の全域にわたる強靱な国づくりを推進するとともに、地球温暖化対策として、再生可能エネルギーの着実な拡大や森林吸収源対策などに取り組んでいくこととしています。

本県は南海トラフ巨大地震・自然災害への備えを着実に推進

南海トラフ巨大地震の発生確率が高まる中、本県では東日本大震災の教訓を踏まえた「震災時死者ゼロ」の実現を目指した取組を加速させています。

また、台風や豪雨に伴う風水害などの自然災害が懸念されることから、本県の強みであり、災害に強い特性を有する自然エネルギーを活用した、防災拠点・避難所の機能強化といった災害に強いまちづくりや、地球温暖化対策や水資源の確保にも寄与する公有林化の推進などにも取り組んでいるところです。

（３）科学技術が切り拓く人類の未来

大変革期を支える科学技術の進歩

科学技術の進歩は、現代文明の発展や人類の活動領域の拡大をもたらし、私たちの日常生活を便利で豊かにしました。とりわけ、情報通信技術（以下「ＩＣＴ」という。）の進展は目覚ましく、世界全体に急速に浸透し、社会や生活のあり方に大きな変化をもたらしています。

今後、ＩＣＴをはじめ、生命科学技術やロボット技術、環境・エネルギー技術など科学技術の幅広い分野において、社会システムや生活様式を一変させる技術革新が進展すると考えられており、その成果を人類共通の課題解決や世界全体の持続的な発展に向け、最大限活用していくことが期待されています。

“世界で最もイノベーションに適した国”日本

我が国は、現下の喫緊の課題である経済再生のほか、急速に進む人口減少・少子高齢化や地球環境問題など山積する課題を克服し、将来にわたる持続的な経済成長や、国民が豊かさと安全・安心を実感できる社会などの実現に向け、科学技術イノベーション政策を強力に推進し、「世界で最もイノベーションに適した国」を目指すこととしています。

資源に乏しい我が国は、科学技術とその担い手である優れた人材が最大の資源であり、優れた人材の育成・確保などにより培われる世界最高水準の技術力を発揮して、国際社会に貢献していく必要があります。

「徳島ならでは」の科学技術による課題解決

本県では、人口減少や災害への備えなど、直面する様々な課題の解決を図り、徳島の未来を切り拓いていくため、県民総ぐるみで科学技術の振興を図っていくこととしており、これまで育んできた全国屈指のブロードバンド環境を活かしたサテライトオフィスや、“21世紀の光源“ＬＥＤ（発光ダイオード）など、強みとなる科学技術の力を最大限に活用して、徳島から人類の未来の創造に貢献していくことが期待されます。

（４）加速するグローバル化と課題解決先進国“日本”

あらゆる局面で“地球規模”の動きが加速

今後、ＩＣＴの劇的な進歩などにより、グローバリゼーションの流れが一段と加速し、ヒト・モノ・カネ・情報の流動性が一層高まり、あらゆる面において、国際的な相互依存が深まると同時に、国家・都市間における世界規模での競争が激化する見通しです。

また、人口の増加や市場拡大などに伴う経済的恩恵の享受が期待できる一方で、「リーマン・ショック」のように、一国の経済危機が瞬時に世界中に伝播するといった負の側面を併せ持つことになります。

中国やインドといった新興国の台頭や、多国籍企業やＮＧＯなど非国家主体の存在感の高まりによる国際的な力関係の変動に伴い、世界の勢力図が大きく塗り替わる可能性があり、国際社会における合意形成や、国際秩序構築の複雑化・困難化による安全保障環境への影響などが懸念されます。

アジアが世界経済を牽引

世界経済は、中国、インドをはじめとするアジアの新興国が牽引し、アジアが現在のような成長を持続することができれば、2050年には世界のGDPの50%以上を占め、「アジアの世紀」が到来するといった予測がある反面、世界第二位の経済大国となった中国の高成長は、生産年齢人口の増加によるところが大きく、今後、高齢化の進行に伴い、経済成長が鈍化するとの指摘もあることから、我が国や本県の将来にも大きな影響を及ぼすと考えられる中国の今後の政治的・経済的動向に十分留意していく必要があります。

課題解決先進国として存在感を示す日本

国際社会における我が国の存在感は、新興国の台頭により相対的に低下し、多極化する世界で埋没するおそれも指摘されていますが、人口減少・超高齢化や地球環境問題への対応、新産業創出といった地球規模の課題を我が国が世界に先駆けて解決し、持続可能な社会モデルを世界へ提示していくことにより、課題解決先進国として確固たる存在感を示していくことが重要です。

2020年開催の「東京オリンピック・パラリンピック」は、変革を遂げた我が国の姿を国際社会にアピールする絶好の機会であり、あらゆる取組を加速させていく必要があります。

徳島発の世界標準を目指した取組

グローバル化の一層の進展に伴い、世界規模での競争の激化が予想される中、本県では、基幹産業である農林水産業を将来にわたり魅力ある産業として発展させるため、高い品質を誇る農林水産物の海外への販路開拓といった輸出強化のほか、国際的な視点を備え世界の様々な分野で活躍する若者をはじめ本県の未来を担う人材育成などにも取り組んでいます。

（５）“新しい価値”を創造していく徳島

時代が求める新たな社会経済システム

我が国の財政は、近年、公債依存度が40%台で推移し、国・地方合わせた長期債務残高が2014年度末には初めて1,000兆円を超え1,010兆円に達する見込みであるなど、極めて深刻な状況にあります。

今後、我が国は厳しい財政制約の下、世界に先駆けて人口減少・超高齢社会を迎え、国民ニーズが一層多様化・高度化する一方で、単身世帯の増加や地域コミュニティ機能の弱体化・喪失が懸念されています。こうした中で、国民の幸福の最大化を図っていくためには、中央集権体制、東京一極集中を打破し、心の豊かさやゆとりを重視した、全く新しい価値観に基づく発想の転換により、過去の延長線上にはない社会経済システムを創出していく必要があります。

地方分権改革の歩みも未だ道半ばであり、かつてないほどの社会経済情勢の変化に対応するためには、地方分権を一層推進し、住民の意思が直接反映され、地域が個性と多様性を活かした自立的発展を遂げる「真の分権型社会」の実現が不可欠です。

徳島から“新しい価値”を世界に発信

本県が、激変する社会経済情勢や一層多様化する県民ニーズに適切に対応し、夢や希望に満ちあふれた、活力ある自立した地域として成長していくためには、“ｖｓ東京”を旗印に、不断の県庁改革はもとより、県民すべてが“徳島が世界をリードしていく”との気概を共有しながら、人口減少を正面から受け止め、潤いのある豊かな地域社会の形成や、個性豊かで多様な人財の確保、魅力ある多様な就業機会の創出といった“ＴＯＫＵＳＨＩＭＡ創生”に積極果敢に挑戦し、そこから得られる達成感・幸福感を“新たな価値”として世界に発信していくことが求められています。

２　県民意識とニーズ

（１）徳島の将来像に対する主な意見

○少子化対策として､｢結婚～出産～子育て｣というライフプランの教育が必要。
○夫婦が理想の数の子どもを持つためには、若年層の雇用環境の改善や、家庭で子育てしながら働くことのできる多様な選択肢の提供が不可欠。
○人口減少や超高齢化を見据えたコンパクトかつ計画的なまちづくりが重要。
○地域防災力の向上には、個人の常日頃からの備えはもちろん、地域での信頼関係を築き、お互いの生活情報を増やし、相互扶助の地域づくりにつなげていくべき。
○大規模災害への備えとして、県民への正確な情報の提供と防災教育の充実、耐震化への支援、備蓄品の改良・増量など、多面的な取組が必要。
○洋上風力発電や潮流発電など、地産地消の再生可能エネルギーの導入を推進するとともにＩＣＴを活用し、世界最先端のスマートシティを実現する。
○様々な課題解決の有効な手段として、また、産業の活性化のため、ロボット開発やＩＣＴなどの科学技術の進展は不可欠。また、４Ｋや８Ｋの普及促進、高速ブロードバンド網のあらゆる場面での活用など、徳島ならではの技術を進化させるべき。
○人口減少や科学技術、防災など、様々な面で四国新幹線の実現がもたらす多大な効果に期待する。
○高校生や大学生が気軽に海外留学できる環境づくりと併せて、外国人と学生が身近に異文化交流できる機会を増やし、グローバル社会で活躍する人材を育成すべき。

（２）若者の視点

①徳島県総合計画審議会「若者クリエイト部会」における議論
※10年後（2025年）を見据えた現行計画の基本目標に関する主な提言

基本目標１　にぎわい・感動とくしま

□宿泊者数増が見込める「徳島ＬＥＤアートフェスティバル」拡大版の実施など、10年後に阿波おどり以上に有名になるイベントをつくる

□意外と穴場の「アスティとくしま」を巻き込んだ水辺環境の創出と、観客に足を延ばして観光してもらう。魅力溢れる｢水上バス｣を使ったアクセスで徳島の魅力を打ち出す

□「四国観光特区」の制定。「８の字ネットワーク」を活用した広域的な観光戦略や、世界遺産登録に向けたお遍路の海外へのアピールなど、徳島の特色を活かしながら県の垣根を越えた観光戦略が必要

基本目標２　経済・新成長とくしま

□第一次産業の６次化から４次元化へ。観光業・サービス業とのマッチングにより体験型とすることで、雇用のきっかけを増やすことができ、技術の承継も可能とすることが見込める

□「徳島ものづくりラボ」をつくる。既存施設に、藍染め、木工、陶芸、３Ｄプリンターなどを体験できる場「ラボ」を整備、ネットワーク化し、体験型観光施設としても活用。インバウンド誘致のほか、地元の人も通い、新商品開発や異業種のコラボなどが見込める

□日本初「デジタルアート美術館」をつくる。「チームラボ」を筆頭としたデジタルアートを展示。「デジタルコンテンツの最先端に触れるなら徳島」といったイメージ戦略や、日本発祥の地として、デジタルアートを文化にしていく

基本目標３　安全安心・実感とくしま

□県立高等学校「環境防災科」の設置。四国初の環境防災を学ぶ教育機関を設置し、防災を正しく学び、知識を得、行動できる次世代の教育は非常に大事

□「県土強靭化計画」。河川の津波対策として防波堤整備、水門開閉の自動化のほか、高松市から県南までの高速道路４車線化の実現など、“命を守る”視点からハード面の整備が必要

□「全県下病院内カルテ共有化計画」。県民１人一つずつ作成したカルテをクラウドに上げ、全病院で共有化することにより、事務作業の削減や、発災時にもカルテの共有が可能になる

基本目標４　環境首都・先進とくしま

□「行動計画編」の数値目標として、例えば、「再生可能エネルギーの占める割合の増加」、「天然のニホンウナギやアユの生息数増加」といった、よりインパクトのあるものを掲げてはどうか

□環境分野の数値目標についても全国順位を導入してはどうか。個別の数値では、それが良好か否か判別が困難

□環境分野は、不法投棄や土壌・水質汚染などの問題がつきまとう分野であり、これら「負の側面」について実態を明らかにするとともに、解消・改善させることも十分目標になり得る

基本目標５　みんなが主役・元気とくしま

□小中学校の一元的なファミリー教育により、結婚、出産、子育てまで想像可能に。多様な家族の在り方、働き方、子育て環境が整っていること、高齢出産に伴うリスクに関する正しい知識を理解することにより、早期の結婚や出生率の向上が見込める

□「とくしま型ワークライフバランスモデル」の確立により、育児休業、休暇制度が普及し、男性の育児休業等の取得が一般的となり、ワークシェア推奨企業が県内各地に存在。男女問わず、子育てと仕事の両立が可能になる

□リビングウィル・エンディングノートの考えが普及し、自らの終末期を自ら計画、選択できる社会の確立により、終末期を自ら考えることで、家族の負担軽減や医療費の抑制につながる

基本目標６　まなびの邦（くに）・育みとくしま

□県内すべての幼稚園・小学校で、「おもてなしの心」を学び実践する「みーんなで、おもてなし！会」を開催し、地域全体でサポートすることで、幼稚園・小学校の児童・生徒は、子どもらしい、おもてなしの心を育んでいる

□中学生・高校(・小学校)の生徒を対象に、国際的に活躍する人材育成のため、空き店舗等を利用して様々な国籍の人々が交流できる場「東新町　西新町・徳島の交流街」を設け、イベントを開催し、盛り上げることで、多くの子どもたちが国際的に活躍している

□特別支援学校、幼小中高校に通う児童・生徒がお互いのことを理解し、個性や能力を認めた上で、徳島の若者では「この人！」、「この取組！」と徳島の光を互いに見出すことができる教育(交流)を実施することで、若者たちが個性を光らせ協働し、自ら発信できている

基本目標７　宝の島・創造とくしま

□「誰もが幸福とくしまづくり(多様性を容認できる徳島)」実現のためには、多様な文化や価値観を認めあう必要。互いを認め合うためには、勉強（座学）だけでなく実体験や何かを一緒に創りあげる体験が必要

□「協働立県とくしまづくり（自立循環型の経済)」実現のためには、官民がうまく協働する必要。ＮＰＯの主体性を信頼し、任せる中で、官の力が必要な部分においては最大限に協力し、官も民間のビジネスモデルをより柔軟に取り入れていく

□「活力みなぎるとくしまづくり（世界のとくしま・自立循環型の経済)」実現のためには、二拠点居住、サテライトワークの推進といった移住の前にひとつ手前の循環する仕組みが必要

②高校生・大学生アンケート調査結果

※徳島県に関する県内高校生アンケート調査結果概要（県立高校1,436人）

【徳島県のイメージについて】

１位「不便」（14.5%）、２位「地味」（12.5%）、３位「暮らしやすい」（11.8%）、以上の三項目が二桁超となっており、全体の約４割（38.8%）を占めています。

【徳島県への定住志向について】

「ずっと住みたい」（14.6%）と、「一度は県外へ出ても、徳島に戻って住みたい」（41.0%）を合わせると過半数（55.6%）を超えており、地元での定住志向もうかがえます。

【将来希望する仕事について】

１位「医療、福祉（保育所含む）」（20.5%）、２位「わからない」（15.0%）、３位「教育、学習支援業」（11.6%）、４位「公務（他に分類されるものを除く）」（7.9%）となっており、就職の希望からも地元志向がうかがえます。

【結婚したい時期・子どもを持ちたい時期について】

いずれも、１位「20代後半」、２位「20前半」であり、20代で見ると、「結婚したい時期」は約８割(79.4%)、「子どもを持ちたい時期」も７割弱（65.8%）となっています。

【徳島県の魅力について】

１位「豊かな自然環境」(25.3%)、２位「阿波おどりをはじめとする豊富な観光資源」（18.0%）、３位「四国霊場、人形浄瑠璃、藍染めなどの歴史・伝統文化」(13.1%)、４位「新鮮で豊富な食べ物」(12.6%)が二桁超となっており、全体の約７割（69.0%）を占めています。

【徳島県に足りないものについて】

１位「魅力あるイベント、コンサート、スポーツ観戦」（15.3%）、２位「街の活気」(14.9%)、３位「通学するための公共交通機関(列車・バス)」(14.4%)、４位「流行の商品が買える店」(12.9%)が二桁超で、全体の６割弱（57.5%）を占めています。

【2050年頃に希望する徳島像について】

１位「南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害への備えが万全となっている」(17.3%)、２位「四国新幹線が開通し、高速道路が十分整備されている」(14.7%)、３位「田舎にしかない良さを再発見し、その良さを活かして街が活力を取り戻している」(12.0%)、４位「子どもや若者が増えて活気にあふれている」(11.7%)が二桁超で、全体の過半数（55.7%）を占めています。

※徳島県に関する県内大学生・高等専門学校生アンケートの調査結果（県内1,618人）からは、各設問について、高校生アンケート調査結果とほぼ同様の傾向が見受けられた。

３　将来ビジョン（2050年頃の姿）

（１）世界へ発信「笑顔のＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」

【子どもたちの笑顔が地域にあふれている】

・我が国全体に「子どもは宝」という意識が浸透し、若い世代が安心して働き、希望どおりに結婚・出産・子育てができる社会経済環境を実現しています。
・テレワークなどの柔軟で多様な働き方や、多彩な幼児教育・保育メニューの選択、経験豊富な高齢者による育児支援など、地域ぐるみの子育て応援が充実しています。
・子どもたちは、家庭や近所、学校で大切に育まれ、豊かな人間性や社会性を身につけて健やかに成長し、いつも地域に子どもたちの笑顔があふれています。

【未来を創造するたくましい若者が社会へ巣立っている】

・学校・家庭・地域の連携や、特色ある教育により、生きる力を支える学力や個性はもとより、多様な価値観を理解でき、国際的視野を身につけた多くの若者が、「ふるさと徳島」への誇りを抱き、世界の舞台で活躍しています。
・ＩＣＴの活用などにより、多様な学習の機会や学びの環境が整えられており、障がいのある子どもたちは、希望する場所で、きめ細やかな教育を受けながら、個性や能力を最大限に伸ばしています。
・英語教育や留学、異文化体験によるグローバル人材の育成や、地域や産業界と連携した職場体験活動などのキャリア教育が、子どもの発達段階に応じて体系的に行われ、グローバルな視点や勤労観・職業観を身につけながら、未来を創造するたくましい若者が社会へ巣立っています。

【一人ひとりが自立しながら支え合い地域で繋がっている】

・障がい者や高齢者は、買い物支援や介護、見守りといった福祉サービスや地域ぐるみでの支援を受けながら、住み慣れた地域で安心して、自分らしいライフスタイルを送っています。
・元気な高齢者や障がい者の多くは、ソーシャルビジネスの起業や、「障がい者マイスター」として大活躍するなど、地域社会の担い手となっています。
・地域全体に世界最先端のＩＣＴインフラ環境が整備されており、ビッグデータを有効活用した質の高い健康・医療・介護サービスや、ＳＮＳによる社会参加、テレワークといった柔軟で多様な働き方が広がっています。
・ワーク・ライフ・バランスが図られ、様々な分野での女性の活躍やキャリアアップも当たり前になっており、男女が互いに尊重し、能力や個性を発揮しながら、充実した人生を送っています。
・地域住民一人ひとりが、年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、自立しながら支え合い、地域の絆が強まり繋がることで、ぬくもりのある地域社会が形成されています。

【健康寿命が延び多様なライフスタイルが実現されている】

・医療技術の進歩により、世界的な課題であった糖尿病を克服し、世界レベルの“研究開発臨床拠点ＴＯＫＵＳＨＩＭＡ”として国内外から製薬企業や研究開発機関の集積が加速し、新たな研究成果を基に先進的な医療・サービスにつなげており、世界の健康長寿にも貢献しています。
・医師・診療科の偏在解消や広域救急医療体制の更なる充実などにより、県民誰もが、いつでも、どこでも高度な医療サービスを受けられる「安心の医療」が実現しています。

・幼少期からの食育の推進により、バランスのとれた食生活や、適度な運動や健康づくりを楽しむ習慣が浸透し､生涯にわたっていきいきと生活しています。
・健康寿命が延び、高齢者の多くが自らの経験や知識を活かした社会貢献活動などを行うなど、地域社会を支えながら充実した日々を過ごすといった多様なライフスタイルが実現しています。

【地域・世代を超えて人の和が広がっている】
・共助の意識が浸透し、福祉や教育、環境保全、まちづくりなど、生活を取り巻くあらゆる領域で、住民やＮＰＯ、企業をはじめとする多様な主体による活動が地域を支えています。
・住民が日常生活で必要とするサービスは、ＩＣＴ等を活用したソーシャルビジネスを介して提供されており、住民主体の地域密着型ビジネスとしても成り立っています。
・社会貢献などによる「心の豊かさ」を求める考え方が浸透し、社会や人とのつながりを求める若者をはじめ多様な主体が様々な｢自立と連携｣を図りながら、地域で課題解決が困難なものは人的ネットワークなどにより克服し、持続可能で個性豊かな魅力ある地域社会を実現しており、地域・世代を超えて人の和が広がっています。

（２）世界に誇る「強靭なＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」

【災害に強くしなやかな県土が広がっている】
・巨大災害を迎え撃ち、「助かる命」を助けるため、ハード・ソフト両面から県土の強靭化が図られています。
・公共施設や民間建築物の耐震化をはじめ、避難施設や避難路、緊急輸送道路の整備といった事前防災・減災対策や、集中豪雨や巨大化した台風の到来に備えた河川改修なども進んでおり、災害に強くしなやかな県土がひろがっています。

【自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれている】
・県内全域において、自助・共助・公助の連携や、自主防災組織による取組が行われるなど、地域ぐるみの防災力が向上しています。
・幼少期からの防災教育等により、県民一人ひとりの防災意識も高まっており、地域防災リーダーを中心に事前復興まちづくり計画の策定や防災訓練が行われるなど、自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれています。

【自然の恵みを循環させるスマートな社会が創り出されている】
・「心の豊かさ」やゆとりのある生活が重視され、住民一人ひとりから社会全体にいたるまで地球環境や資源の有限性を意識しており、環境にやさしいライフスタイルや社会経済システムを選択しています。
・エコカーなど環境に配慮した製品・サービスの購入や、モノの所有から必要なときに必要な量だけ利用する共有（シェア）へと意識が向上しています。
・太陽光をはじめ自然エネルギーが主要なエネルギー源となっており、シート状太陽光パネルの農業への導入や豊富な森林資源を活用したエタノールの製造、浮体式洋上風力発電と漁業との融合による地場産業創出など、あらゆる領域で「エネルギーの地産地消」が普及するなど、自然の恵みを循環させるスマートな社会が創り出されており、成果を幅広く発信することにより地球環境の改善にも貢献しています。

【豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られている】

・適切な汚水処理などにより、清潔で快適な生活環境が確保され、豊かな水辺空間を求めて、子どもから高齢者まで多くの人々が訪れ、楽しんでいます。
・公有林化が進んだ森林は、間伐や広葉樹林化により多種多様な生物が生息する豊かな森へと生まれ変わっており、水資源の確保や土砂災害の防止のほか、カーボン・オフセットによる温暖化対策を図ることなどにより、県民生活に様々な恩恵をもたらしています。
・ブナ林などの貴重な自然林は大切に守られ、ツキノワグマといった希少動物の生息エリアが拡大するとともに、農林水産業被害を食い止める野生鳥獣の適正管理が行われ、豊かで暮らしやすい農山村となっています。
・農山漁村や中山間地域では、美しい景観を活かした地域づくりが行われており、豊かな自然と潤いあるふるさとの風景が守られています。

【安全・安心な暮らしと豊かな食文化が息づいている】

・食品の産地偽装防止対策の強化や、幼少期からの食育、地産地消の浸透により、安全で安心な食生活が実現しています。
・「くらしのサポーター」を中心とした地域ぐるみの消費者被害防止ネットワークにより消費者被害を未然に防ぐとともに、高齢者などの生活弱者にやさしい買物支援システムの導入などにより、誰にとっても安全・安心で充実した消費生活が実現しています。
・交通安全運動のほか、特殊詐欺やＤＶ、ストーカーといった日常生活を脅かす犯罪等についても、地域住民と警察・行政等が一体となった防犯ネットワークが機能するなど、安全・安心な暮らしと豊かな食文化が息づいています。

（３）世界とつながる「創造のＴＯＫＵＳＨＩＭＡ」

【地域の強みを活かした新たな成長ビジネスが産み出されている】

・世界最先端のイノベーション創出環境を求めて、多くのベンチャー企業や研究開発機関が集まっており、ＩＣＴや環境・エネルギー、医療・健康分野などを中心に、多様な産業・人材集積を活かした新産業・新サービスの創出や積極的なグローバル展開を図っています。
・“２１世紀の光源”ＬＥＤや“ジャパンブルー”阿波藍を使用した製品や、優れた機能・デザインが人気を集めている木工家具など、「徳島のものづくり」をはじめ産業の粋を集めた“ＭＡＤＥ　ＩＮ　ＴＯＫＵＳＨＩＭＡ”がクールで高品質というイメージを確立しており、世界中で愛されています。
・「安全・安心」「高品質」「おいしさ」を誇る徳島の農林水産物が世界でも認められ、海外輸出量が飛躍的に増大するとともに、企業等による六次産業化や異業種連携など、多様な主体・体制の拡充により、世界の和食ブームを支えています。
・世界的なＣＬＴの普及等により飛躍的に拡大した木材需要に加え、川上から川下まで森林資源を活かした循環型経済システムが確立され、県産材の生産量、消費量が飛躍的に増加しており、林業関連産業では多くの若者が活躍しています。
・ＩＣＴやロボット技術の導入・活用により、あらゆる産業分野・領域で生産性・品質が飛躍的に向上するとともに、地域の強みを活かした新たな成長ビジネスを産み出しており、徳島経済は持続的な発展を遂げています。

【世界をリードするクリエイティブな人財が集う場がある】

・世界最高水準のＩＣＴ利活用社会を実現した徳島は、多様な働き方や地域ぐるみのサポート、豊かな自然を満喫できる快適な居住環境を備えた“世界のクリエイティブセンターＴＯＫＵＳＨＩＭＡ”として広く知られ、創作活動拠点を求め、世界をリードする多くのクリエイターやデザイナーといったクリエイティブな人財が集い、徳島の若者たちとも刺激し合いながら、意欲的に「新たな価値」の創作・発信を行っており、クリエイティブ産業は本県の主要産業に成長しています。

・誰もが自分の価値観やニーズに合った多様な働き方を選択でき､多くの人々が、希望するワークスタイルを目指してスキルアップに励みながら自己実現を果たしています。

・ＩＣＴの活用などにより、職業訓練を含む教育を生涯にわたり何度でも自由に受けることができます。

【世界に誇る伝統が世代を超えて受け継がれている】

・地域のキーパーソンが中心となり、代々受け継いできた地域資源をベースに、多様な人材や異文化とのコラボレーション・連携を試み、ソーシャルビジネスなどにより、六次産業化商品の販売や観光ビジネス等に取り組んでいます。

・二地域居住者や修学旅行生はもとより、「徳島ならでは」の魅力を求め、世界中から多くの人々が訪れ、定住者も増加するなど、活気に満ちあふれています。

・子どもから高齢者まで住民すべてにとって、利便性、快適性に配慮した地域づくりが進んでおり、日常生活に必要な買物や移動手段などが確保された恵まれた自然環境の中で豊かな生活を送っています。

・農山漁村では、地元住民を中心に創意工夫を凝らしながら、日本の原風景ともいうべき豊かな自然や歴史、文化、地域に根ざした行事、生活習慣など、世界に誇る伝統が世代を超えて受け継がれています。

【世界を変えるイノベーションの渦が巻き起こっている】

・世界最先端のイノベーション創出環境の下、産・学・民・官の叡智を結集して「新たな価値」を産業化することにより、人類が直面する課題を次々に解決しており、“世界のクリエイティブセンターＴＯＫＵＳＨＩＭＡ”から世界を変えるイノベーションの渦が巻き起こっています。

【ＴＯＫＵＳＨＩＭＡが世界のスタンダードに躍進している】

・世界から注目されている「あわ文化」は、多様な担い手により、阿波おどりや人形浄瑠璃など先人から受け継いできた貴重な財産と様々な文化や価値観との融合が図られ、「新たな価値」を創造しながら進化し続けています。

・多くの子どもたちが、「あわ文化」をはじめとする国内外の一流の文化芸術に直に触れながら豊かな心と感性を育み、「ふるさと徳島」への誇りを胸に多くのアーティストが世界を舞台に活躍しています。

・徳島が誇る世界の強豪「ヴォルティス」と「インディゴソックス」は、多くの日本代表選手やプロ野球選手を輩出し、世界中の子どもたちの憧れの存在となっています。

・青少年が様々な競技種目の国際大会を間近に体感できるといった恵まれた環境の中で、夢や高いモチベーションを抱きながら指導を受けることにより、徳島から多くのトップアスリートが世界に羽ばたいています。

・誰もが、「いつでも、どこでも、いつまでも」芸術や文化、スポーツを楽しみながら、いきいきと元気に暮らしています。

・「新たな価値」の創造・発信により、世界の発展に貢献し続けている“世界のクリエイティブセンターＴＯＫＵＳＨＩＭＡ”を目指して、世界中から多くの人々が仕事や留学などで集っており、身近にいる外国人とも幼少期から交流して多様性を理解し、人間性が豊かになっています。
・「四国８の字ネットワーク」や四国新幹線など、災害時のリダンダンシーの確保にも寄与する高速交通ネットワークが整備されており、機能が強化された空港・港湾や公共交通機関とも連絡し、国内はもとより世界との交流が飛躍的に拡大しています。
・世界遺産「四国八十八箇所霊場と遍路道」での心のこもった「おもてなし」をはじめ、伝統、文化、産業などあらゆる分野で洗練された宝が地域の魅力として輝きを放っており、世界中から「徳島らしさ」を求める旅行者を惹きつけ、リピーターを増やしており、観光は一大産業となっています。
・ユニバーサルデザインの考え方やＩＣＴの恩恵が浸透した地域社会では、子どもから高齢者まで県民誰もがいきいきと活動し、安全・安心で快適・便利な暮らしを送っています。
・差別とは無縁の人間らしい生活を送ることができる経済・社会のあり方は、“ダイバーシティＴＯＫＵＳＨＩＭＡ”として、世界のスタンダードに躍進しており、世界中の人々を惹きつけ、「ＴＯＫＵＳＨＩＭＡに生まれてよかった、来てよかった、住んでよかった」と実感しながら生活しています。